

桜区防災ニュース

第29号（令和5年1月）

桜区自主防災会

<https://sakuraku.org>



桜地区の皆様、明けましておめでとうございます。

桜区自主防災会では今年も地域の安全と福祉をテーマに「防災・減災」への取り組みを一層充実強化していく所存です。地区の皆様のご理解ご協力を切にお願い申し上げます。



年の初めにあって、まず近年の災害の歴史・経緯を振り返ってみます。

まずは、今年で100年を迎える1923年（大正12年）の関東大震災、そして終戦前後には1943年の鳥取地震、44年の東南海地震、45年の三河地震、46年の南海地震、48年の福井地震と毎年のように地震が発生しました。地震の震度階級に新たに震度7の激震が新設されたのも1949年です。以来46年間、日本の高度成長期を通して、この基準に該当する大地震はありませんでした。そして1995年（平成7年）阪神淡路大震災が初の震度7を記録しました。

以後、平成の30年間は文字通り、日本が災害列島・地震列島であることを思い知ることになる大災害・大地震が頻発しました。相次ぐ火山噴火（1991年の雲仙普賢岳、2014年の御嶽山）、毎年のように我が国を襲う豪雨災害。そして阪神淡路大震災の後も、30年間に5回を数える震度7の地震が続きました。2004年の新潟中越地震、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、2018年の北海道胆振地震と、ほぼ5年に一度の割で発災しており、今や空白域は関東と東海エリアを残すのみとされています。

南海トラフ巨大地震の発生が懸念され、注意喚起されてから既に10年以上が経過しています。北海道胆振地震から今年で5年。いつ発災しても不思議でない状況の中で我々がやるべきことは、もうはっきりしています。

自分と家族の命を守るための「災前の対策」をいつやるか、何をやるか、誰がやるか、どれだけやるか。水と電気とガスが1週間止まった生活。乳幼児や子供たちをどう守るか。自立のむつかしい高齢者や病人、障がい児者をどう支援するか。想像力と創造力が問われています。

年の初めの「一年の計」として、まず「我が家の防災・減災」の対策を考えましょう。そして、できることから「行動」しましょう。「備えあれば憂いなし」といいます。やるのは「今でしょ！」

東北の方からの忠告です。「緊急時、持って逃げるのは命だけ」

とはいえ、今年一年の皆様とご家族の平穏とご繁栄を祈念し、大きな災害が当地を襲うことのないことを切に願っています。

命を守る避難の3原則

- ・ 想定にとらわれるな
- ・ 最善を尽くせ
- ・ 率先避難者たれ

注；

避難とは**難を避**けることで、安全な場所にいる人まで避難する必要はありません。避難の形には色々あります。

- ① 在宅避難（含む垂直避難）
- ② 縁故避難（親戚や知人宅など）
- ③ 避難所、車中泊、テント泊
- ④ その他の安全な場所